



西尾寿博議員

「大山北壁の水」

PRのために活用する

問 標高700m地点にある大山寺地区の、水源地からくみ上げたこの恵みの水を大山PRの一環として「大山北壁の水」の名称で売り出すことになった。

(1) いくらで売るのが。成分によっては、高価な水もある、水素、バナジウム、ケイ素等は調べたか。

(2) 本格的に、売りだせな



大山のPRに役、北壁の水

いか。そうすれば雇用も増え、自主財源も豊かになる。人口増にもつながら、自然環境の良さが評判になる。

(3) 県は持続可能な地下水利用の調査をし、その中間報告を4月に出している。変化する前に湧水地点、水量等の調査をするべきだ。湧水は、観光地になる可能性もある。

(2) 製造・販売をする企業を積極的に探す考えはないが、製造・販売の申込みがあれば提供し、大山のPRのため、イベント等で積極的に活用したい。

(3) 過去に水道施設を整備するにあたり、湧水地点を調査し、5カ所は確認しているが、湧水等の現状調査の必要もあると思う。

答 (山口町長)

(1) 一般消費者には1本120円、小売りを目的とされる商店等には1000円で販売。成分は表示しているとおろし。詳しい成分は調べていない。

(2) 製造・販売をする企業を積極的に探す考えはないが、製造・販売の申込みがあれば提供し、大山のPRのため、イベント等で積極的に活用したい。

(3) 過去に水道施設を整備するにあたり、湧水地点を調査し、5カ所は確認しているが、湧水等の現状調査の必要もあると思う。

どうなる、ゴミ処理

検討しなおす必要がある

問 中山地区のゴミを米子市で2011年から5年間、地区住民の了解が得られ、受け入れ態勢ができた。

中山清掃センターはいつ壊れてもおかしくないといわれ、2年前にも相当な修理費がかかっている。(1) 壊れた場合、どうするのか。いつまで操業できるのか。

(2) 米子市に委託する場合、西部広域行政管理組合にかかるゴミ経費、本町のゴミ経費を、どの程度、想定しているか。
(3) 米子で受け入れてもらうメリット、デメリットは。
(4) 平成28年度以降の抜本的な対策は。

答 (山口町長)

(1) 現在、町内のゴミは、2施設で処理可能だが、中山清掃センターは、操業17年目、平成28年度以降の方針のめどが立つまでは、更なるゴミの減量化などにより延命化を図っていく。

また、緊急の場合について、大山地区のゴミ処理を境港市と受け入れの契約を交わし備えている。(2) 米子市への処理経費等については、西部広域全体に係るので、今後の検討課題となっている。

(3) メリットは、焼却委託料との比較が必要ではあるが、建設費、人件費、



老朽化している中山清掃センター

施設維持管理費の削減が考えられる。大型の焼却炉による焼却条件の緩和につながるが、焼却できる物の範囲が広がる要素がある。

デメリットは、施設解体費用の歳出、焼却場が遠くなるため、運搬経費がかかり収集委託料の増額が見込まれる。また、単独でなくなるため、他町村と考え方の調整が必要になる。

(4) 西部広域全体の課題であり、平成22年度末までには、どういうふうな方法が一番いいのか、検討し直す。